

「未来高岡」ステップアップトーク（能町地区）会議記録 ＜要旨＞

- 1、日 時 平成 28 年 11 月 25 日（金） 午後 7 時 30 分から 8 時 30 分
- 2、場 所 能町公民館
- 3、出席者 市民 48 名（うち女性 5 名）
高岡市 市長、経営企画部政策監、広報統計課長
- 4、会議次第
 - (1) 高岡市総合計画基本構想の紹介
 - (2) 参加者との意見交換

(1) 高岡市総合計画基本構想の紹介

(2) 参加者との意見交換

参加者

- ・平成 24 年の高岡市の当初予算は 1,331 億円ほどだったが、平成 28 年には 1,394 億円ほどで、約 63 億円増えている。この 5 年間、市の当初予算の規模は大体 1,300 億円台で推移しているが、1,400 億円にならないように調整しているのか。
- ・市債発行額については、平成 24 年度当初予算では 119 億円ほどであったが、平成 28 年度当初では 91 億円となり、28 億円ほど減少している。一方、市債の残高については、平成 28 年度末の見込み額として 1,138 億円としているが、平成 24 年度から比較して 100 億円以上増えている。健全な市の財政運営においては、市債残高を中長期的に減らし、次世代にバトンタッチしていくのが理想ではないか。
- ・市の人件費については、平成 24 年度当初予算では 111 億円だったものが、平成 28 年度当初では 104 億円となっているが、7 億円ほど減少している理由は。

市長

- ・一般会計と特別会計を合わせた市の当初予算の規模については、1,300 億円を意識していることはなく、結果として 1,300 億円台となっている。一般会計については、新幹線関連の建設事業費が増えたため予算額が増えている。返済できる範囲で市債を発行しながら、市債残高を徐々に減らしていけるよう工夫していきたい。
- ・人件費の減少については、職員数を減らしたことが理由である。現在では、退職者数が最も多くなる時期は過ぎ、職員採用についても計画的に実施しているのでバランスが取れてきたと思う。財政構造の健全化についても考えていきたい。
- ・市債残高を減らすよう取り組んでいきたい。また、実質公債費比率¹についても、現在 15% 前後であるが、18%を超えないよう管理していきたい。

¹ 自治体の収入に対する負債返済の割合を示す。通常、3 年間の平均値を使用。18%以上だと、新たな借金をするために国や都道府県の許可が必要となる。

参加者

- ・様々な計画は 4 年ごとに策定されるものだと思っているが、今回策定された高岡市総合計画基本構想は平成 29 年度から平成 38 年度までと長期となっているのはなぜか。
- ・能町地区のまちのなかが非常に暗いと感じているので、街路灯などを整備して町をもっと明るくしてほしい。現在、伏木地区にある勝興寺の修理が行われているが、もし勝興寺が国宝に指定されれば、能町地区は勝興寺と瑞龍寺という 2 つの国宝を結ぶ重要な地区となる。高伏道路沿いに出店したいが、灯りが少なく不安だという声も聞いたことがあることから、勝興寺や瑞龍寺を含め、井波の瑞泉寺や五箇山をつなぐ観光ラインとして、まちの灯りについても考慮してほしい。

市長

- ・道路の明るさについては、街路灯、防犯灯など安心して歩ける状況にするための方策を講じることは必要だと考えており、地域の方々と相談したい。具体的にどの道路が危険であるか教えてほしい。また、市内には瑞龍寺、勝興寺、国泰寺などの名刹があるが、これらの名刹を巡るツアーはぜひ構築したい。呉西圏域の名刹、古刹を取り上げたツアーは呉西の観光のテーマの一つであるため、可能性を探っていきたい。

参加者

- ・おとぎの森公園から E ボートを使って川下りを催している団体があるが、千保川を使った観光に力を入れてほしい。
- ・高岡市の吉久と伏木、射水市の内川など、呉西の 6 つの市それぞれに特徴のある観光ルートがあると思うが、それらの点と点をつないだ大きな観光ルートを考えていくべきではないか。

市長

- ・千保川クルーズは、春には“さくらクルーズ”として定着してきた。もう少し工夫していく必要はあるが、これからも挑戦していきたい。

参加者

- ・吉久に空き家が増えてきている。吉久は富山大学高岡キャンパスとも近いので住めるような空き家であれば、富山大学芸術文化学部の若者を誘致し、シェアハウスとして提供できるようにすれば若者を誘致する目玉になると思う。

市長

- ・空き家対策については、高岡市は早くから取り組んでおり、現在、法律に基づいた仕組みづくりを行っている。使える空き家はぜひ流通させたいので、不動産関係の方に相談したり、中古住宅が必要な方に紹介したりしている。また、整備すれば住める空き家については、市内でもいくつかリフォームなどして活用されている。山町筋周辺でもその動きがあることから、環境リフォームや耐震リフォームなど行政として支援していきたいと思っている。この取り組みを、若者の定住に向けた仕組みにしていきたいので、アイデアをいただければと思う。

参加者

- ・若者がなかなか結婚しない状況にある中、若者にどのような結婚観を持たせるべきなのか。行政が積極的に婚活支援事業を運営することは難しいかもしれないが、協力できることは協力したいので考えてほしい。

市長

- ・行政は、若者が結婚をしたいと思う環境をつくっていかなければならない。出会いの場が少ないのであれば出会いの場の創出が必要である。氷見市、小矢部市、高岡市でつくる高岡地区広域圏事務組合では、「広域縁結びプロジェクト」を行っており、高岡市としても力をいれていきたい。行政としては、若者の結婚に向けた後押しをしていきたい。